

教育目標	校訓「自主・創造・飛翔」の下、教育活動全般を通じて、生徒一人ひとりの個性と能力を伸張し自立的に生きる力を育成する。				
重点目標	実践目標	中間評価 (アンケート結果)	自己評価(達成状況)	学校関係者評価(意見)	改善の方法
<p>学力の3要素の習得 主体的・対話的で深い学 び への授業改善</p>	<p>1 指導と評価の一体化 年間計画や教科の目標、習得すべき学習内容、評価についてシラバス等を用いて、生徒に説明し計画的に教科指導をする。 2 学力の3要素の習得を目標とした授業改善 学力の3要素(基礎的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力、主体的に学習に取り組む態度)の習得を目指し、生徒同士の協働的な作業や対話を多く取り入れた授業を展開し、生徒が主体的に学ぼうとする態度を涵養する。各教科の学習活動から自己の考えを形成し、課題を発見・解決する深い学びにつなげる。 3 大学入試改革を念頭に置いた進路指導 大学入試改革について各種の情報を収集し、研修会等で得た情報を職員で共有する。</p>	<p>B</p>	<p>1 指導と評価の一体化 学習と評価の一体化について目標は概ね達成されているが、学校として授業内容、学習計画、評価の観点、評価方法を生徒が理解しやすいシラバスに改変して提示する必要がある。 学習環境については、職員、生徒アンケートともに落ち着いた環境で学習できていると感じており、授業見学をされた学校評議員からも授業の雰囲気について高い評価を得ている。 2 学力の3要素を目標とした授業改善 文部科学省が提唱する教科横断的学習や探究型授業を実践するための教科間の連携や活動は、個々の教員が自主的に実践を進めており、学校全体での取組の状況は昨年度より向上している。 3 大学入試改革を念頭に置いた進路指導 生徒のキャリア形成の取り組みについては、進路講演会、進路相談、個人面談等の指導について生徒はおおむね満足している。職員の大学入試改革に関する関心も徐々に高まり、研修会や情報収集に努める教員が増えている。</p>	<p>1 指導と評価の一体化 学習と評価の一体化については、学校の説明通りだと理解している。シラバスの充実と公表を待ちたい。 2 授業改善 11月の公開授業週間では、生徒の対話や主体的な活動の場面が多くみられ、アンケート結果からも生徒の満足感がうかがえる内容であった。 3 進路指導 進路指導に関する取り組みは保護者や地域の関心も高く、さらなる向上を目指してほしい。今後の発展を期待している。</p>	<p>1 指導と評価の一体化 すべての教科、科目にシラバスを作成し生徒への説明を義務付けるとともに、生徒の学習意欲を向上させるように努める。 2 授業改善 職員や生徒のアンケート結果に満足することなく、最新の情報を入手するとともに関係部主催の職員研修会で21世紀型授業の普及に努める。 3 進路指導 Classi等のツール活用し日々の生徒のキャリア形成の支援をし、実力査定や模擬試験を有効に買うよう努める。</p>
<p>部活動の活性化</p>	<p>1 部活動の活性化 部活動指導において生徒や保護者の要望を取り入れたり、新しい試みを実施することで、生徒、保護者と職員が協働して活性化に取り組む。 2 生徒の成長 部活動を通して生徒の技能や人間的な成長を図る。</p>	<p>B</p>	<p>1 部活動の活性化 部活動の加入率が80%を超える本校では、日々の活動が活発に行われ、運動部では野球部、男子バレーボール部の躍進は目覚ましいものがある。また、他の運動部や文化部でも生徒同士が良い刺激を互いに与えあいながら活動できている。 2 生徒の成長 部活動を通しての生徒の人間的な成長については、数値的に表しにくい面があるが、充実感は生徒、保護者ともに高く感じている。</p>	<p>1 部活動の活性化 放課後の様子を見れば、部活動の活気は理解できる。元気で力強い生徒の育成に今後とも邁進してほしい。 2 生徒の成長 職員としては部活動を通しての生徒の人間的な成長については、できていると思う。通学途中でも運動部の生徒はよく挨拶してくれている。良い傾向だと感じている。</p>	<p>1 部活動の活性化 今後とも部活動の加入率の高さを維持することにとどまらず、内容的な充実を図りたい。オープン・ハイスクールでの部活度ぶの体験等にも取り組んでいく。 2 生徒の成長 保護者生徒ともに部活動が挨拶等の生活規律に好影響を与えていることは実感している。今後とも生徒の生活をはじめ人格陶冶に寄るよう努める。</p>
<p>信頼される人づくり</p>	<p>1 基本的な生活習慣の確立 挨拶や時間の管理を生徒自身が主体的に実践する。 2 人権意識の涵養 いじめのない学校 生徒に人権に関する意識を涵養し、いじめのない安全で安心な学校づくりに努める。 3 ボランティア活動での自尊感情の涵養 地域のボランティア清掃をはじめ、被災地支援や募金活動を通して、社会における自分の役割や自尊感情を育成する。</p>	<p>B</p>	<p>1 基本的な生活習慣の確立 挨拶や時間の管理については、生徒、保護者ともに自立して実践できていると感じており、学校としても落ち着いた雰囲気<sup>2</sup>で教育活動が実践できていると評価している。 2 人権意識の涵養 いじめのない学校 いじめアンケートの各学期での実施に努めているが、今年度はいじめ事案が発生しており、今後もさらに生徒に人権に関する意識を涵養し、いじめのない安全で安心な学校づくりに努めていかねばならないと感じている。 3 ボランティア活動での自尊感情の涵養 ボランティア活動については、生徒会役員だけでなく希望して参加する生徒もあり、昨年度より生徒のボランティア活動に関する意識が高まっている。</p>	<p>1 基本的な生活習慣の確立 挨拶は地域の方々にもよくできている。安定した家庭環境の生徒が多く、大人しく落ち着いた感じの生徒が多いと感じている。 2 人権意識、いじめのない学校 いじめ問題はすべての学校で起こりうるという認識を職員全員が常に持ち、適切に対応していく。LGBTIにとどまらず特別な支援が必要な生徒への対応チームも設置して対応している。 3 ボランティア活動 被災地支援は今年度初めての実施であった。今後も継続していく。地域と連携した地道な活動も継続していくことによって、生徒の地域(ふるさと)に対する愛情を涵養していく。</p>	<p>1 基本的な生活習慣の確立 生徒、保護者ともに基本的な生活習慣の確立については自信を持っており、良い傾向を継続するための生徒理解に基づいた指導を徹底していく。 2 人権意識、いじめのない学校 いじめ問題はすべての学校で起こりうるという認識を職員全員が常に持ち、適切に対応していく。LGBTIにとどまらず特別な支援が必要な生徒への対応チームも設置して対応している。 3 ボランティア活動 被災地支援は今年度初めての実施であった。今後も継続していく。地域と連携した地道な活動も継続していくことによって、生徒の地域(ふるさと)に対する愛情を涵養していく。</p>
<p>その他</p>	<p>1 教育活動の広報活動 本校の教育活動をHPやメディアを通して広く広報する。 2 業務改善 業務の活性化と適正化 職員組織が機能的に活動し、業務の効率化を通して勤務の適正化を実現する。 3 生徒支援の充実 スクールカウンセラーとの連携、職員研修を通して個々の生徒の抱える問題に個別に適切な支援を実施する。</p>	<p>B</p>	<p>1 教育活動の広報活動 広報誌「西陵」HP更新は昨年度と変化はないが、新聞等のメディアを通しての広報は充実した。 2 業務改善 業務の活性化と適正化 業務の効率化と勤務の適正化を目指して、今年度より業務の見直しや改変を順次実施している。 3 生徒支援の充実 スクールカウンセラーとの連携、「いじめ未然防止プログラム」「ユニバーサルデザインに基づいた授業づくり」研修を活用して生徒理解に基づいた支援が実施できる職員の意識涵養を実施している。</p>	<p>1 教育活動の広報活動 今後とも広報活動を推進してほしい。 2 業務改善 勤務の適正化は国の急務だとは理解しているが、むつかしい問題だと思っている。 3 生徒支援の充実 生徒支援のための研修会が校内で実施されていることを知り、うれしく思う。</p>	<p>1 教育活動の広報活動 HPだけではなく、新聞報道にも今年度は多く取り上げられた。今後とも広報活動を推進することで学校の活力を推進します。 2 業務改善 勤務の適正化を目指すことで、生徒を指導する時間の確保と内容的な充実を目指して今後とも業務改善に努めます。 3 生徒支援の充実 校内研修の充実と郊外での研修の報告会の実施等、生徒支援につながる努力を実施します。</p>